

2023 ズバリ! 的中



日本史

京都大学

平忠常の乱に関する史料および、 史料内の空所補充問題が的中

入試問題

前期日程

I A

河合塾

夏期講習 京大日本史

第2講 I B

I 日本史B問題 (20点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(9)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A
(万寿5年(1028)7月15日)上総介為政、妻子を近日上道せしむべき由を申す。しかるに件の事により、国人いよいよ国司の事を聞かざるか。国司はアの掌握にあり、生死は彼の心に任さる。蓋吹の事、日をおって断えず。アの従者、館の内に入り乱れ、国司の従類を打ち縛るの由、麻舎人友成の申すところなり。

(長元4年(1031)7月1日)夜に入り頭弁来たりて云わく、「今夕、頼信朝臣来向す。宣旨の趣を仰すに、申して云わく、『しきりに朝恩を蒙り、四か国に任ぜられ、殊に宣旨をうけたまわり、アを追討す。戦場に赴かんとするの間、不慮のほかア帰降す。ひとえに朝威の致すところにして、頼信の殊功にあらず。しかるに、たちまち褒賞の論言をうけたまわり、驚恐の寸心を抑えがたし。ただ衰老、日に積もり、遠任に赴きがたし。もし朝恩あらば、丹波に任ぜられんことを欲す』といえり。まずイに申して奏聞すべき由、示し含めおわんぬ。

(『小右記』)

- (注) 「上道」は、平安京に上ること。
「蓋吹」は、乱暴なふるまいのこと。
「宣旨」「論言」は、ともに天皇の言葉のこと。当時の天皇は後一条天皇で、すでに成人していた。
「帰降」は、降伏すること。

第2講 古代II

I 次の史料(A・B)を読み、下記の問(1)～(2)に答えよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

第2講

B

(寛仁二年六月二十日)辛亥。(中略)土御門殿寝殿の間を以て諸受領に配し営ましむと云々。未だ聞かざるの事なり。造作の過差、往跡に万倍す。又伊予守頼光、家中の雑具皆悉これを献す。厨子・屏風・唐櫛筒具・韓櫃・銀器・鋪設・管絃具・劍、其の外物、記し尽くすべからず。厨子には種々の物を納め、辛櫛等には夏・冬の御装束を納む。件の唐櫛筒等の具は皆二具あり。又枕蓆等あり。屏風二十帖、几帳二十帖と云々。希有の希有の事なり。(中略)当時、太閤の徳、帝王の如し。世の興亡、只我が心に在り。(中略)

(長元三年九月六日)丙辰。(中略)甲斐守頼信、殊に宣符を給はり、国々相俱にエを追討すべき事、(中略)皆以て仰せ下す。(中略)

(長元四年七月一日)丙午。(中略)入夜、頭弁来りて云はく、「今夕、頼信朝臣来向す。宣旨の趣を仰す。(頼信)申して云はく、『頼りに朝恩を蒙り四か国に任じ、殊に宣旨を奉り、エを追討す。戦場に赴かんと擬するの間、不慮の外、エ帰降す。偏に朝威の致すところ、頼信の殊功にあらず。而るに忽ち褒賞の論言を奉り、驚恐の寸心抑へ難し。唯だ衰老日に積り、遠任に赴き難し。若し朝恩有らば、丹波に任ぜられんと欲す』てへり。先ず関白に申し奏聞すべきの由、これを示し含め了んぬ。

(注) 「過差」とはぜいたくなこと。

「太閤」とは前摂政・関白の尊称。

問

- (1) 下線部(a)からは、受領が家族を連れて任国に赴いていたことがわかる。菅原孝標も同じようにして上総国に赴任したが、彼の家族はその経験を書物に記した。その書物の名を記せ。
- (2) に当てはまる人物は誰か。姓名を記せ。
- (3) 下線部(b)の「従類」とは、従者のことである。受領が平安京から引き連れていき、任国支配に用いた「従類」を、ふつう何と呼ぶか。
- (4) 下線部(c)の「頼信朝臣」について、この人物の孫は陸奥守として地方豪族の内乱を鎮圧した。その戦いを何と呼ぶか。
- (5) 下線部(d)について、文脈上、この宣旨の趣(内容・趣旨)を示すものとして最も適当な2文字の語句を、史料の文中から選んで記せ。
- (6) 下線部(e)について、丹波を希望する理由は何か。文脈に即して、簡潔に記せ。
- (7) には、このときの藤原頼通の地位を表す語句が入る。その地位を漢字2字で答えよ。

問

- (8) 下線部(d)では、「土御門殿寝殿」を「諸受領」に割り当てて造営させている。これに関連して、私財を出して朝廷の儀式や寺社の造営などを請け負い、その代償として官職に任じられる制度を何とよぶか。
- (9) 下線部(e)に関して、「太閤」とは誰か(あ)。また、史料B中の「頼光」は、「太閤」に仕える武士でもあった。「頼光」のように、代々武芸を職業とし、五位程度の位階を有する武士の家柄を何とよぶか。漢字4字で記せ(い)。
- (10) にあてはまる人物名を記せ。
- (11) 下線部(f)の「官符」を発給した官司を記せ。
- (12) 史料B中の「頼光」と「頼信」は兄弟であり、父もまた摂関家に仕えた。彼らの父が摂関家に接近する契機となった事件は何か。